



「思いをこめる」ということ

早いもので2月も下旬です。1年の終わりが近付いてきました。
この時期特有の学習として、各学部での送別行事があります。
昨日(2/20)は、高等部の「3年生を送る会」が行われました。

1・2年生が感謝の気持ちを込めて準備を進めてきました。準備の過程で、伝えたい思いが膨らみすぎて、当初予定の開始時刻を20分前倒しての実施となりました。

会では、3年生に楽しんでもらおうと1・2年生それぞれから趣向を凝らした出し物が披露され、3年生は大喜びの様子でした。

会の終わりには、3年生からの歌が披露されました。「手紙」の合唱です。

とても美しいハーモニーで、さすが3年生だな、と思いました。歌い始めの頃、「どんな気持ちで歌っているのかな」などと考えていましたが、すぐに聞き入ってしまいました。何だか自然と涙がこぼれ、ただ感動しました。

歌の最後には、後輩たち一人一人に3年生からの手紙が贈られました。

「思いをこめる」ことは素敵なことだな、と思います。人は人と関わり合い、支え合いながら生きていきます。この中でそれぞれの思いが通じ合うとき、豊かな関係性が築かれていくのかもしれませんが。

最高の学びの1時間でした。

